

年末・年始を無災害で！思い込めた「ご安全に」の声掛けを！！

ご安全に！第 10 期後半年も 3 ヶ月が経過しました。第 18 回定期中間大会で決定いただいた活動方針に基づく諸活動・取り組みの推進にあたり、加盟組合・構成組織、県本部・県センターの皆さんには、ご理解・ご協力、そして積極的な参加をいただいております。また、新型コロナウイルス感染症拡大により、在宅勤務をはじめとするテレワークなど、これまでにない働き方へ対応されている加盟組合・構成組織の組合員の皆さん、とりわけコロナ禍で非常に厳しい環境下にあっても献身的に職務に従事されている組合員を含めた病院関係者の皆さんをはじめ、それぞれの持ち場・立場でのご奮闘に心から敬意と感謝を表すところであります。

さて、今年は連合が実施している「労働安全衛生に関する調査」の第 10 回がまとめられました。本調査は、労働安全衛生に関する職場の状況や労使の取り組みを把握し、連合での取り組みや政策要求の策定・実現に向けて 3 年に一度、全国規模で実施しているものです。その中で、労働災害の発生状況をみると、「発生しなかった」は全体の 3 割弱にとどまり、7 割強の事業場で労災事故が発生しています。発生の原因別では、全業種とも「不注意やうっかり」が断トツで 8 割強を占めています。一方、2019 年の基幹労連における労働災害発生状況の調査では、大半が「挟まれ・巻き込まれ」「墜落・転落」による災害となっています。

第 10 期後半年の方針である「安全衛生活動の再強化」では、死亡災害の連鎖を断ち切る職場原点に立った活動、全ての仲間が安全で安心して働くことのできる職場環境の構築などを掲げ、引き続き最重要課題としての取り組みを進めることとしていますが、足もと、報告ベースも含め 12 件 12 人の尊い命を失っています。大切な仲間が、幸せを育むための働く職場で突然命を奪われる、こんな辛く悲しいことはありません。前述の災害の傾向やこれまでの尊い教訓である災害事例を積極的に労使で共有・活用することにより、災害撲滅に向けて徹底した取り組み・活動をお願いいたします。

今年も残りわずかですが、コロナ禍という今までと違う年末年始を迎えることとなります。第 3 波といわれる新型コロナウイルス感染症に対し、拡大が懸念される都市を中心としたさまざまな自粛要請・対策による効果が表れ、穏やかな新年を迎えられるよう心から願うばかりです。

自身はもとより仲間とご家族の安全と健康、そして年末・年始を無災害で乗り切るために、心を込めて「ご安全に！」

2020 年 12 月 10 日
日本基幹産業労働組合連合会
事務局長 津村 正男